

会費納入のお願い

年会費 2,000円
①郵便振替口座番号 00140-8-549806
②さくら銀行日本橋東支店 普通預金 6341774
天草高校同窓会 関東支部事務局

あまたか News 関東

熊本県立天草高等学校 同窓会 関東支部

発行 廣田和史
編集 廣報部 酒井孝幸
印刷 株式会社 光洋
同窓会事務局 池崎 力ヨ子
〒173-0011東京都板橋区双葉町12-8 (株)ボプラ内
TEL.03-5375-1350 FAX.03-5375-1305

更なる前進を願って

関東支部会長

廣田 和史(高4回生)



メの会・ハイキングの会
・囲碁将棋の会・ゴルフ
コンペ等。
②パソコン体制：なるべく早くホームページを開設して、関東支部の最新情報を提供する共に、同窓生名簿の管理、会報「あまたか」の発行、皆さんとの情報交換、その他パソコン体制による正確な事務管理を推進する。

同窓会関東支部の活動は、同窓生皆さんの熱きご支援を頂き、お陰様で順調に推移しております。紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。
さて、これまでの主な活動は年一回の総会・懇親会と会報の発行(今年から年二回発行)でしたが、一層の交流を深めるために次の活動を計画しております。
①少人数でも参加できる同好会活動：例えば、グル

百年の道を継いで

天草高校同窓会 会長

堀田 善久(中28回生)



100周年以前は本部とは名ばかり、総会といっても常連の40、50人が集まり報告を拝聴するだけの集まりでした。こう言う私も無関心派の一員でした。
鶴田前会長が生徒の課外勉

いのが現状です。パソコンによる詳細資料の作成が可能であり資料を提供致しますので町内の交流も盛んにして頂ければと思っております。
④今年には関東支部名簿の改訂版を発行する予定でしたが、同窓会本部でも発行を準備(13年予定)しているため合同発行に変更致します。ご諒承下さるようお願い致します。
当面の計画は以上の通りですが、皆さんの多数のご意見を頂き、より一層充実した魅力ある同窓会づくりを進めたく思っております。是非、ご意見・ご要望をお寄せ下さい。
同窓会活動は、母校愛と郷土愛をベースにした「其感の場」と思っています。会って話すと時間の経つのを忘れれます。共感が其感を呼ぶのでしょうか。
10月22日の総会には是非ご参加下さい。お待ちしております。

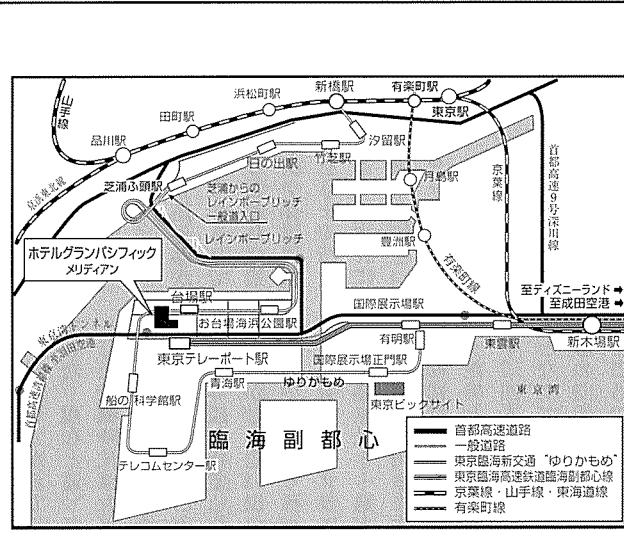
関東あまたか会 第十六回総会開催のご案内

一、日時

平成十二年十月二十二日(日)
会場 臨海副都心 0分
受付 11時から
総会 12時から
講演 12時30分から
本渡市長 安田公寛氏 (天高20回生)
男性10,000円
女性 8,000円

二、会場

ホテル、グランパシフィック
東京都港区台場二一六一
03-5500-6711
三、交通
明日の天草を考える
「島に陽は昇るのか?」
懇親会 13時から



本部は今、長野四郎氏を事務局長として、常時同窓会の在り方を研究しています。毎月行っている理事会を会報「図南」の編集委員会にて、年2回の発行を実現しています。5年ごとの全国大会の構想も生れました。平成13年は創立105年の記念大会です。実行委員会を組織して、この秋から準備に入ります。来年の秋を予定しています記念大会には大挙してご参加ください。同窓会の活性化は現在の母校の活性化に確かな刺激として伝わっています。このことが何よりも喜ばしい事です。関東支部の同窓生の皆様の益々の発展をお祈りいたします。

西 功 (二回生・牛深)

〒343-0023 越谷市東柳田町10-14
電話 04896278058
FAX 0489627932

森下 一人 (二回生・二江)

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-29-15
電話 03-34415551
FAX 03-34415555

廣田 和史 (四回生・坂瀬川)

〒300-1252 茨城県稲敷郡峯崎町高見原3-4-37
電話 0298743400
FAX 0298743443

小川 矩正 (五回生・佐伊津)

〒232-0066 横浜市中区六ツ川2-1-195
電話 04573737904

酒井 孝幸 (五回生・都呂々)

〒270-1121 我孫子市中崎三75918
電話 0477881800

同窓生の近況

高齢社会の
主役たち

八十三才の友情



荻田俊子

五十年間この仕事を続けて

来まして、この四月にまた、ピアノ発表会をいたしました。が今回感動した事はありませんでした。と申しますのは、七十年前の同級生の方々が見事な洋ランの花束を贈って下さったのです。年賀状に、「今年も発表会をしなければなりません。老骨に鞭打って頑張っています。」と書いたのが発端で、同級生の森喜美子さんが大分市に住んでいらっしゃるのに、関東、熊本、天草に連絡され、十名の方々のご賛同を戴いたと云う事でした。申し訳なくて何度もご辞退したのですが、「最初にして最後の来年の事は老人故解らない」と、笑い乍らの電話でした。発表会当日、その花束が届きました。幸色の色、大好きな黄色系で世界で一番立派な花束でした。有難う、有難う、と何度も声に出して言いました。抱きかかえようとずしりと重かったのは、花束が大きかっただけでなく、皆様の長い深い友情の重さだったと思っ

ています。思えば昭和の初め本渡高女に入学し、殆んど遊びに学校へ通っていたようなものですが、二年頃から音楽の片山先生からピアノを教えていた

だいてから目が覚めました。その後、音楽学校へ入りましたが、片山先生から受けた薫陶は常に私の生命として生きております。先生は九十三才で熊本市にお元気でいらっ

りません。嬉しく思っております。皆様からの花束は、私へのはげましとも思えて、これからも生涯現役と努力してまいります。

十名の方のご芳名は次の通りです。(敬称略)

鶴田喜美子、有馬八千代、下門豊子、松下のしえ、石渡ますか、中村花子、岡部サダメ、沢田春香、熱田礼子、岡部文江(祝電を下さいました)以上です。

本渡高女十七回卒、本渡町

熟年特集

まだまだ現役

渡辺和則



同窓会の行事に熱心に参加する方でもない私に、寄稿を呼び掛けて下さった役員の皆様、先ず感謝すると共に恐縮しています。

私は昭和三十三年三月に天高を卒業し、翌三十三年四月に上京し、大学卒業後、墨田区立錦糸中学校教諭を振り出しに、八王子市立第四中学校

私の戦後は
終わらない



宮本恭栄

私は、旧満州の大連で生まれ、小学六年の夏、長春(新京)で終戦を迎えた。そして一年後、日本に引揚げて来た。

この終戦から引揚げまでの一年の思い出があまりにも後味の悪いものだったので再び満州の土地を踏むことはあるまいと思っていた。ところが年月を重ねるうちに、段々と行かねばならないと強く思うようになったのである。それは

満州の広野に一人眠っている妹、和子に会わねばならないという思いの高まりによるものだった。和子は終戦の時、ロシア兵がマンドリン銃を持って土足で座敷に踏み込んでくる切迫した中、新京の満州鉱山社宅で生まれ、すぐに死んだ。父(天中十回生)は日本刀一振り添えて和子を社宅の庭に埋めた。その和子を一人残し私達家族は新京を後にしたのである。

昨年七月、会社員生活を終えたのを機に、旧満州へのツアーに参加、大連、新京を訪ねた。満州は猛暑で、新京も三十度を超す暑さだった。観光を済ませ、ガイドの張さんとタクシーで社宅跡に向ったが付近は大きく変わっておりアパートが建ち、周りには雑草が生い茂っていた。形見に代わるものを見つけることが

できなかった。写真撮るのが精一杯だった。張さんは、和子のことを話すと、心よく私に付き合ってくれたのである。気持ちばかりのお礼をする、翌朝たくさんのトマトをぶら下げて、新京駅まで丁寧に送って呉れた。おかげで和子をしつかりと抱きかかえることができたと思つた。撮ってきた写真を小さな骨壺に入れ、墓に納めた。和子の骨壺は、丁度母親の骨壺の前に置かれた。五十四年振りの再会だった。

長で定年退職するまで、八つの中学校に三十七年間勤務し、平成十一年四月からは、八王子市教育委員会の嘱託員として就学相談員をしています。この仕事は、主に障害のある子どもが、どのような教育環境で学ぶのが良いかを保護者と共に総合的に判断して措置することです。責任を伴う仕事ですが、校長の時代に較べると気持ちも楽で、週四日の勤務でもあり、その分趣味に費やす時間も増えました。私の趣味は専らアウトドアで、特にスキーには熱中しました。若い頃、秋には雪を待ちきれずに、人工の船橋ヘルスセンターや、狭山スキー場に頻りに通いました。スキーでは肋骨骨折をはじめ、怪我で痛い思いもしましたが、結婚相手に出逢ったり、新婚旅行もスキー場に行ったりと、楽

い思い出が山ほどあります。スキーバイキングも夢中で行っていましたが、セブ島で潜っていて、エアーカーで死ぬ思いをしたりして、老眼になった今は危険なので全く止めています。その替り、プールでの水泳は健康のために行っていきます。今一番熱中しているのがゴルフです。PTA役員等との付き合いで始めて八年目ですが、思っていたより難しいスポーツだと経験を積み重ねて実感しています。これは技術、体力に加えてメンタルの部分が大いなので、コンペのときに意気込んで自分の力が入り、失敗を繰り返している次第です。もともと若い時から始めていたらと少し後悔しています。しかしこれからもう下手なりに楽しんでいこうと思つているこの頃です。

天高を卒業して半世紀がたちました。本渡で過した中学、高校時代の思い出があれもこれもと浮かんで来ます。両親の墓が茶北町にあるので時折帰ることもありますが、本渡の町の変わりようには本当に驚きます。帰る度に卒業した学校のまわり、六年余り住んでいた城下周辺……を歩き廻って当時を思い出しています。今回の四月に開港した天草空港のおかげで早く帰れるようになつて、こんなに嬉



高橋君子

なつかしい天草をいいで

最初は勤務した学校で知り合つた夫と結婚し、もう四十二年、四人の息子たちも社会人となつてそれぞれ頑張つているので親として一安心というところ。みんな近くにいるので孫たちが入れかわり、たちかわり遊びに来たり、預けていかれたりで大さわぎです。今のところ夫婦で出掛けるよりも、それぞれ友人と出掛ける方が多いようです。多摩湖、狭山湖に近いので友人と歩く会を作り、一週間に二回遊歩道を散歩しています。西武球場から出発し休憩をはさんで四時間程歩きます。いつまでも足腰を丈夫に、そして胃袋も丈夫にして、おいしい空気を吸い、おいしい料理を食べよう……が目標です。畑を三坪ほど借りて夫と二人で野菜作りもしています。新鮮な野菜はおいしいです。今年の夏は天草に新鮮な魚を食べに帰りたいです。

旧金井、天高三回生、本渡

インターネット画廊 ネットキス
<http://www.net-kis.com>
net-kis.com
 ちょっと覗いて見て!
 こんなホームページを開設しました。
 肖像画、ペットの絵などの制作、一般の作家のためにヴァーチャルギャラリーとして、発表の場の提供。
 洲崎 千尋 (七回生 本渡)
 自宅 横浜市戸塚区名瀬町783
 TEL 045-811-2566 FAX 045-811-2566
 E-mail suzaki@net-kis.com
 工房 東京都大田区南蒲田1-3-3 (三井)
 TEL 03-3738-2474 FAX 03-3730-7717
 E-mail mitsui@net-kis.com

●新車●中古車●リース●各種保険●ポリマーグ
 ラス●無洗米●日本文字ニュース代理店、等々
 ●民間車検場●日帰り車検
 ●土日車検もOK!
 お役に立つことなら何でも…

株式会社オートアベニュー
 代表取締役 吉田建二 (七回生 本渡)
 東京都田無市本町 7-18-8 〒188-0011
 TEL. (0424) 66-3233 FAX. (0424) 65-5101
<http://www.hi-ho.ne.jp/avenue/>

同窓生の近況

輝いて
生きる

いつまでも天草

山口涼子

私は現在看護婦として病院に勤務しております。一度は結婚を機会に退職し子育ての間は専業主婦として過しましたが、子供が小学校に入學する頃、再就職を考え、約八年間のブランクの後、今の病院へ就職致しました。しかし勤めた病院は最先端をいく三次救急の病院で、医療の進歩にとまどい、勤めたことを後悔したりの一年間でしたが、なんとか乗りこえて今日まで勤めて来ております。支えてくれた家族に感謝するばかりです(ちなみに主人も佐伊津出身です)。

病院に勤務していますと多



勢の患者様と接することになります。やはり九州の方とわかると、とてもなつかしい気持ちになってしまいます。もう一昨年になりますが、八十才の男性の方が私の受持になりました。何度か話をしていたら、先月も天草を身近に感じるようになりました。一緒に働いている若いスタッフの両親がなんと牛深出身だということになりました。五月に用事で天草に帰ったのですが、おみやげの「天草サブレ」からそのことがわかり、びっくりしてしまいました。たぶんその両親は私と同年代位かと思いますが、牛深高校の同窓生ということでした。今は

わず大きな声を出しました。その後、天草はどこかとなりなんと彼は父の里である大多尾の出身で、父の兄と同級生であり、又父のことも知っていると聞くことで天草の話が盛り上りました。広いよう盛りに上りました。お互い天草出身ということ、時には天草弁を混えて楽しい日々を持てたことは今も良き思い出として残っております。

又、先月も天草を身近に感じるようになりました。一緒に働いている若いスタッフの両親がなんと牛深出身だということになりました。五月に用事で天草に帰ったのですが、おみやげの「天草サブレ」からそのことがわかり、びっくりしてしまいました。たぶんその両親は私と同年代位かと思いますが、牛深高校の同窓生ということでした。今は

晴れたら山歩きに出掛け、降ったら読書をし、日が暮れたら酒を飲み早目に寝ることにしよう。そして朝は夜明けと共に起きて草花との対話をしよう。定年後の気ままな日常を夢みていたら何日もしない内に仲々そうはいかないことを思い知ることになった。まず第一に一人では何をやっても面白くないのだ。同じ趣味をもつ人がすぐ近くで見つかる筈はないし、又自分と同年輩で、生活環境、仕事のキャリヤ、趣味など、いわゆる話と呼吸の合う人など、めつたにめぐり合うことはな

おとなしくて素直な彼女がとても身近に感じられます。又、そのうちに天草の方と会えるかも知れないと云うことを期待してもうしばらくは、看護婦を続けていきたいと思っております。

サンデーまいにち

仲根陣十郎

天高二〇回生、本渡

この会報が発行される時期が土用の最中で丁度梅漬の土用干しの季節である。我が家では毎年十キロの梅漬を作っているが土用干しが終わって梅干しとなるのである。

戦中、戦後の食糧事情が悪く中でも朝食と弁当には必ず梅干しを食べる習慣があった。当時ほどこも井戸水を飲

帽子のはなし

酒井孝幸

古い話だが、今から丁度六十年前、昭和十五年は皇紀二千六百年に当り、当時は帝国主義の隆盛期で子供心にも強いインパクトとして現在でも印象深いものがある。そういう時代の中、私は昭和十六年四月、国民学校第一期生として入学するとき、当時在郷軍人会の役員をしていた父親が買ってもらえてくれた入学用品の中の帽子が学習院型のものであった。私の父親は昭和天皇と同じ明治三十四年四月二十九日生れのため、誕生日が天長節(戦前の天皇誕生日)として国民に祝ってもらえるというのが自慢のたねだったようだ。ところが片田舎の学校ではその帽子が場違いが目立ちとなり、私自身小柄な

体格であったため、帽子が歩いているようだと、子供どうしのカラカイの的となつて、かくされたり、汚されたりしてかぶって歩くのが苦痛となつたのである。そこで朝家を出るときはかぶって出て途中の竹ヤブにかくしておき、帰りに又かぶる方法で親に叱られないよう用心深くしていたが、ある日近所のオバサンが拾ったと届けてくれたためさ

月には大東亜戦争が始って戦闘帽に切り替わっていき、人並の帽子がかぶれたのであった。そして丁度五十年前、昭和二十年天高入學時、十年前のあの帽子を改造して天高の記章をつけてかぶったのである。卒業記念写真の帽子がそれである。その後両親は角帽姿を見たが、当時は入學時の記念写真だけでほとんどかぶらない時代になっていたため特別な気持はない。その両親も逝って十年以上過ぎた。近頃は家庭菜園でのムギワラ帽と仲よくしている。

いのだ。そして長い間会社人間としてやってきて、仕事の上下はそれなりの自負があった人でも辞めた途端、ただの人になることが解っていない自分を知らさせるのだ。この切替えの悲哀を描いたNHK、BSテレビドラマ「定年ゴジラ」を見た方も多いことと思う。

まず自分の妻が一心同体などと考えたら大間違いだ。昼間の生活環境は自分が全く知らなかった地域社会に根付いた生活パターンを築いており、成長した子供達はもろもろ父

としており、水あたり、食あたりの予防と食物のねまりを遅らせる効果があった。その梅漬の塩の割合が二合塩である。つまり青梅一升に粗塩二合の割合を示している。土用干しのとき、見た目には塩がふき出る程の量であるがこれが微妙な風味をかもし出すノウハウなのである。三日三晩の土用干しといつて、昼干し三日、夜干し三日を繰返すのである。(その間その反対の時間は梅酢に漬込む)近頃は減塩梅干しも売られているが風味がおちるようだ。代々保存食として梅干しの他、コッパ、味噌、醤油等が自家倉に保存されていたが、これらの作り方を教えてくれたのが昭和四十一年二月の西行忌、十五日に八十六才で亡くなった祖母であった。

近頃気になること

江崎政継

厚生省の人口動態統計によると、一九九九年の日本の出生者数は約百七十五万人で、今世紀最低だった。少子化が一段と進んでいるわけだ。九年の合計出生率(女性一人が生産する子どもの数)は一・三四人。このペースでいくと、日本の人口は二〇〇七年にピークを迎えた後、減少に転じる。五十年後には半減する勘定だ。たとえ出生率が一・六一に回復しても、二十世紀末には人口は半分になるそうだ。先のことを心配しても仕方ないと思えても色々な面で生活に影響が出てくるのは間違いないことで、孫子の代とはいえ考えさせることのひとつである。

二合塩

西田九仁夫

この会報が発行される時期が土用の最中で丁度梅漬の土用干しの季節である。我が家では毎年十キロの梅漬を作っているが土用干しが終わって梅干しとなるのである。

戦中、戦後の食糧事情が悪く中でも朝食と弁当には必ず梅干しを食べる習慣があった。当時ほどこも井戸水を飲

としており、水あたり、食あたりの予防と食物のねまりを遅らせる効果があった。その梅漬の塩の割合が二合塩である。つまり青梅一升に粗塩二合の割合を示している。土用干しのとき、見た目には塩がふき出る程の量であるがこれが微妙な風味をかもし出すノウハウなのである。三日三晩の土用干しといつて、昼干し三日、夜干し三日を繰返すのである。(その間その反対の時間は梅酢に漬込む)近頃は減塩梅干しも売られているが風味がおちるようだ。代々保存食として梅干しの他、コッパ、味噌、醤油等が自家倉に保存されていたが、これらの作り方を教えてくれたのが昭和四十一年二月の西行忌、十五日に八十六才で亡くなった祖母であった。



が、当時としては買替えてもらうことなど出来ない相談であった。その年十二

親の定年後など無関心、長い間家族の生活を支えてきたのに何事だと思っても、「長い間ご苦労さまでした」の一言で全て終りである。

さて私の場合、年代としては高度成長期に当り、比較的恵まれた仕事環境であった。しかし金喰い虫二匹の子育てとマイホームのローンが終了、ホツとした間もなく定年を迎えた。体調も良い中でこのれからの生活をどうしていくか思案中である。ゴルフも麻雀も囲碁も将棋も一人では出来ないし、集会所へ行ってみても自分よりずっと年配の人ばかりに見えて馴染みにくいのだ。そうこうしている内に、雨の日など昼間から酒を飲む仲間が出来て、世間、家族へのグチ、悪口が酒の肴となつて話が弾むのである。良い趣味や仕事を持って心豊かな日常の方も多いと思うが、気力、体力の衰えが感じられるこの頃、せめて家族の負担にならない程度の心身状態を保つていくことが目先の課題である。

厚生省の人口動態統計によると、一九九九年の日本の出生者数は約百七十五万人で、今世紀最低だった。少子化が一段と進んでいるわけだ。九年の合計出生率(女性一人が生産する子どもの数)は一・三四人。このペースでいくと、日本の人口は二〇〇七年にピークを迎えた後、減少に転じる。五十年後には半減する勘定だ。たとえ出生率が一・六一に回復しても、二十世紀末には人口は半分になるそうだ。先のことを心配しても仕方ないと思えても色々な面で生活に影響が出てくるのは間違いないことで、孫子の代とはいえ考えさせることのひとつである。

五回生 志柿

不動産のことなら何でもご相談下さい。

株式会社 ポプラ

代表取締役

池崎 カヨ子

(14回生 鬼池)

〒168-0073 東京都板橋区双葉町12-8
電話 03-5375-1350 FAX. 03-5375-1305

山本電設株式会社

代表取締役

山本 忠義 (15回生)

(五和町城河原出身)

〒211-0016 川崎市中原区市ノ坪548番地
TEL 044-433-8000 FAX 044-433-3838

あの人のこのごろ
まだまだ元気です

暮しの達人!と云う情報誌によると、もし震度七程度の直下型地震が発生したとき、屋内から逃げ出す数十秒の間、家屋の倒壊を防いでくれるだけの丈夫さがあるかどうか、診断してくれる組織があるようだ。診断の結果により費用をかけて補修することになるが、未ず人命第一の安全性を重視する方には考をおすすめしたい。

「木耐協」(日本木造住宅耐震補強事業者協同組合)川口市元郷三三三〇。〇四八二二四一八三二六。横浜市在住の小川矩正(五回生・佐伊津)の自宅は診断の結果「良」と診断され本人も建築家として納得出来たとのこと。皆さんにもおすすめしたい。

今年の三月のことです。母の法事で天草へ帰省しました。いつもは熊本から「マリンビユー」を使ったり、妹や弟に迎えに来てもらったりですが、今回は福岡からの飛行機を利用しました。三月二十四日、とても風のない日でした。名古屋からのジャンボ機から乗り換えた私たちが、どんな思いであの「イルカ号」に乗っていたか予想がつかず、少しは静かか?しかし静岡へ帰ってきた私はあの恐怖にも似た揺れのことなどまるで無かった事のように、こちらの友人たちに、天草がより近くなったこと、静岡にない空港のことなど、得意になって話したことでした。このように、とかく故郷のことになるとなにかしら「たが」がはずれる私なのです。と語るのは静岡市在住の榎木陽子(旧浜、二十回生、楠浦)



ある絵画展より

平成十年三月中旬、京橋の東京近代美術クラブ画廊で、第二十五回高潮展が開催されたが、その中に懐かしい本渡のあの祇園橋と大きな南蛮榎の油彩の絵(F十号)写真があった。本渡市出身で天中三十五回卒の梶原嘉辰氏の絵である。この高潮展は、戦前の東京高等工芸学校(現千葉大学工学部)出身の絵の愛好家が集う絵画展である。この学校は古くからデザイン学科があり、当然絵画は必修科目で、卒業生の中には中央画壇で活躍している人も多い。例えば新制作の大御所赤穴宏氏をはじめ、変わった所では漫画家のやなせたかし氏や唐津の高名な陶芸家十三代中里太郎右衛門氏もおられる。さて梶原氏の絵は、三年前の夏のあの祇園橋の大樹が伐採されたのを惜しみ、往時を忍んで描かれたよし、ふるさとの人達も大勢来館し懐かしがっていた。因みに、来館した主な「あまたか」同窓会の面々は、先

中京支部だより

去る六月二十五日、名古屋ガーデンパレスにおいて第九回総会が盛大に開催された。荒木忠夫氏(高12回生)が、日新電気(株)での要職をなげうって、天草における子育ての苦勞話「演題:ふるさと天草に親子のふれあいを求めて」に全員が感動。引き続き懇親会、牛深ハイヤ節の踊りに時間の経つのを忘れた一日であった。



関西支部だより

去る七月二日、大阪東洋ホテルにおいて第十三回総会が百三十余名の出席者の下に盛大に開催された。前天草事務所長の長野孝治氏の講演は「天草はこのまま放っておいたら沈没する」のお話しに会場はシーンとして声なし。解決策は市町の合併にありとの由で、全員ホッと支援の声があがった。引き続き懇親会が大いに賑わい再会来年の七月第日曜日(約)を約して散会した。

婦人部からのお願い

あまたか会婦人部のスタートに当たって、会員皆様のご参加、ご協力をお願いします。誰もが気楽に、家族ぐるみで参加出来るような事を企画していきたいと考えています。いくつかの具体例を挙げてみますと、(一)、趣味の会(ダンス、山歩き、ハイキング)など、(二)季節の花見会、(三)お食事会、などいろいろあると思いますので皆様のアイデア、ご希望などお聞かせ下さい。今までにあまたか会の総会へ出席したことがない方々にも是非ご参加いただける様に、あまり参加者数にこだわらず、肩に力を入らない楽しい親睦会を目指したいと思っておりますので宜しくお願い致します。

事務局からのお願い

1、年会費納入のお願い
いつも年会費を納入頂き厚くお礼申し上げます。今年度(12年度)の年会費につきましても、同封の郵便振込票【中学・高女・高(一)回生の欄に記入の上】により納入頂きますよう宜しくお願い致します。
2、名簿の発行予定変更のお知らせ
関東支部の名簿の発行を予定していましたが、同窓会本部で来年度に全員の名簿を発行することになったので関東支部も来年度発行に延期いたしますのでご諒承下さい。なお8月中旬には往復ハガキによる第一回調査(同窓会本部より旭出版に委託)がありますのでご協力願います。
3、会報の寄稿について
本年より年二回発行することとなりました。旅行、趣味、私の健康法、同期会の記事、その他、近況を是非お知らせ下さい。

編集ノート

関東あまたか会報の編集に3年振りに参加しました。同窓会誌として、どのようなテーマを取上げたら皆さんに興味を持って貰えるか関係者で相談の結果、今回の紙面になりました。寄稿をお願いした方の中、高齢者の方々が元気な方と健康を損ねている方など人生模様もみえて複雑な心境です。高齢社会は高齢者が主役として頑張って戴きたいものです。
本年も十月二十二日(日)に第十六回関東あまたか会総会が開催されます。楽しく面白い会にするため皆様のご意見をお寄せ下さい。
会報第八号発行に際し、原稿を寄せられた方、広告に賛同戴いた方に、お礼申し上げます。
事務局 池崎 カ
事務局 酒井孝幸

「酒処 酒仙」
鶴岡 優
(御所浦)
東京都新宿区歌舞伎町2-37-5
日新ビル2階
電話 03-3200-5223

「クラブ 赤石」
赤石 洋子
(本渡)
東京都中央区銀座8-8-7
銀座第三ソワレドビル5階
電話 03-3573-3994